大正十四年六月一日

内外情報

第百四十二號

目次

（非賣品 禁轉載）

□情報

支那

長江航業の近況……一
福建近情雙電……三
廣東近情雙錄……七
唐・范の勝敗及惠州落城と粵局……八
廣西省の現狀(上)……一五
湖北・湖南・江西三省に於ける線路用木材の調査(下)……一八

蘭領東印度

爪哇に於けるカポツクと其の用途……二六

英領北ボルネオ

北ボルネオ林業概觀……四〇
英領北ボのニッパ椰子と其の產物(上)……四二

其他

一九二四—二五年度緬甸稻作最後豫想概略……五〇
蘭領印度コプラ輸出表……（次號）
蘭領印度茶輸出表……（次號）

臺灣總督官房調査課

□蘭領印度コプラ輸出表（單位千瓩）

年別	仕向國別 和蘭	英吉利	獨逸	佛蘭西	伊太利	丁抹	新嘉坡	其他	合
※一九二三年	二六、五三	八、三五	五四、四九〇	四九、二九	三、六九	三、三〇三	四〇、九八一	三、二五三	三五、三七八
一九二二年	一四、三五七	三、八二四	三八、〇七八	五二、八五二	六、一八四	一四、四六三	五七、八二一	三九、四六四	二七、二七三
一九二一年	二五、四〇二	四、一〇五	三〇、九八二	二五、二五五	八、〇一〇	二四、〇三五	六二、六八〇	二四〇二	一八、三〇五四
一九二〇年	八、三〇八	七、四六六	三、〇三五	五、三四四	六、六二九	三、七〇〇五	三、八四六	一六、六三五	三〇、九八二
一九一九年	一四、三五四	六、四四二	二五、四〇九	一〇、九五五	二、四四三	三、一四八	五〇、七九六	七、一九五	三〇、九八二
一九一八年	—	—	—	—	—	—	三二、二五六	四五、一〇二	七七、三七八
一九一七年	一六、八二四	三、〇三七	—	—	—	—	三三、八四六	六三、五四二	六八、三七〇
一九一六年	七、八三五	一、二五三	—	二、七〇五	三、六	—	五六、〇〇七	三、二八三	二五、二二九
一九一五年	二三、七六五	四、七〇	—	九、五六三	四、五八八	—	三八、〇〇三	八四、九六六	一七四、八四二
一九一〇年	九、二四	二五六	二八、三六六	七、〇一四	三、三二三	六七七	四五、八七二	一七、九三六	二四八、一四八

備考　※は假數を計上せり。
右表は蘭印輸出入檢査局統計に據る。

情報

支那

□長江航業の近況

楊子江上各商埠は支那航業第一重要なる航路にして、上は重慶より宜昌に至り、下は漢口より上海に至る八百餘支里の沿江各地は支那出産物品の最も富饒なる區域なれば、外商の支那輸出業を經營するもの必ず上海・漢口・宜昌・重慶を重要視し、汽船航業者は更に此の長江上・下游の航路を爭ふこと甚だ烈し。現在長江往復船の間にて已に勢力を占めたる汽船會社は七會社にして、此の會社中太古洋行を首位とし、怡和・招商・日清之に次ぎ、三北・鴻安・寧紹又之に次げり。內六會社は共に同一航線內に在りて其の營業は各自に別營し居るも船賃は七會社共各個の自由競爭を制限せるを以て亂雜を免かるゝを得たり。然るに近頃に至り支那商三北汽船會社は長江上下游の航業を擴充するが爲、特にノーウェー國汽船二艘を買入れ、（載量各三千五百餘噸）一を鳴鶴と改め一を泰山號と稱し、長江線に割込ませ從來有る所の德興・長安の二艘を上海・漢口線內に入れ、新汽船二艘をして長江上游の宜昌・漢口線に服務せしめたり。

アジア経済研究所 Japan Center for Asian Business and Economic Studies http://www.ide.go.jp

三北會社には共計七艘の汽船ありて揚子江内を航行せるが、今回鳴鶴號汽船の第一次に長江線に新に加入し、漢口より上海へ下るに、積荷競爭の爲、遂に陰密裏に船賃を下げ、六會社公會加盟の各會社と私に競爭を爲したる事、漢口各汽船會社の偵悉する所と爲り、頻りに上海本店に打電報告し、太古・怡和・招商の三會社より同時に抗議を提出するに至れり。當時招商局は以爲へらく三北會社亦支那商の設くる所なるに、萬一にも怡和・太古の兩會社と營業上に競爭を生ずれば、彼等は資本大にして船舶多きを以て支那商側は甚だ割に合はざるべしと。是に於て招商局が彼の公會内に加盟せる廉を以て、遂に出でゝ調停に任じ、三北會社に向つて穩に商議する所あり、新加入の二汽船中に於て鳴鶴或は泰山の何れの一船にてもよし、之を抽き去つて用ひざることゝし、又秘密に價格を低下するが如きことを思ひ止まらしめんことを求めたるに、三北會社は之を拒絶したり。是に由りて太古・怡和・及招商の三會社は聯合して三北と競ひ合ひ、三會社は四月分より起り亦漢口より上海行の各荷物の賃銀を下げ原價の半額とせり。かゝる方法により三會社の汽船は毎回積荷滿船となれるも、其の損失も亦重大なり。然れども太古・怡和の二會社は歴年大利を收め居たれば、此の區々たる損失は固より妨なきも、支那商の汽船は恐らくは支持し難からんか。されど此の競爭の爲一般の客商筋は其の甚だ安値なる爲め大喜の體なりといふ。

此の外米國商大來洋行は宜昌・重慶間に在りて航業を經理し、已に十餘年を歴て收利亦大なりき。隻數は二艘にして一を大來遊一を大來喜と名づけ、共に五百噸級の川船とす。去年大來遊が火災に罹りしより以後、同洋行は未だ新しき汽船を補はず、僅に大來喜一艘をして之に當らしめ居りしが、現在長江汽船の數日々に加はり、宜昌・重慶線内の各國商船は四十餘艘の多きに至り、しかも競爭激烈にして貸銀日に下り、營業上思はしからざる狀況となりたれば、同洋行は遂に意を決して大來喜を太古洋行に讓渡すことゝし、已に船價も双方間に議定されたれば、直に該船を太古に引渡すべしといふ。（五月六日—經濟新聞）

□福建近情彙電

泉州の事變と周氏の剿討　泉州の民軍孔昭同は鄉團を解散したるによりて事變を激成し、人民を屠戮すること甚だ衆し。周蔭人は已に隊を派して剿討に赴かしめたるが、又厦門の葉舉・洪兆麟も亦周に向つて同じく援助を乞へりといふ。（四月廿九日—福州電）

楊砥中の家屋競賣　薩鎭氷の電に、「令に遵ひ楊砥中の有せる福建の家屋（樓房）二棟を差押へて競賣に附す。」とあり。（五月一日—福州電）

盧・高各旅の配置　周蔭人の電に匪軍福建を擾亂し、閩北は盧興邦。閩南は高義自ら指揮と爲

る。廬・高の議定によれば同安・馬巷は葉定國・楊漢烈の擔任に、泉州は高義の擔任に、惠安は高部汪旅の擔任に、莆田は楊部林某の擔任に、仙遊は高部尤賜福・吳威の擔任に歸せしめ、現に泉・莆・同各地には均しく戰爭有りといふ。（五月一日―北京電）

楊氏の家產返還請求　海軍陸戰隊は楊砥中の家產差押に反對し、連名を以て海軍當局に打電し、直ちに調査の上全部返還されんことを請へりといふ。（五月四日―福州電）

陸戰隊各營長の總辭職　海軍陸戰隊の全體は旅團制を廢して營制と爲ることに反對し、各營長連署の上電報を發して海軍總司令部に向ひ辭職を請へりといふ。（五月三日―福州電）

楊樹莊の會匪禁令　楊樹莊は佈告を發して曰はく、會匪の名義を借りて人民を攪亂する事を嚴禁すと。

孔昭同の動員計劃　孔昭同は焦營に令して安海より馬巷に赴かしめ、呂營をして其の防禦地を受け繼がしめ陸團と何營とに令して灌口より同安城に赴かしめ、漳州に入城せし第四十五團をして灌口・馬巷に赴きて防備を布置せしむることゝせり。

陳・楊兩軍の同安襲擊說　漳州の通信によれば、陳國輝・楊學良は將さに長泰へ斜出し、蓮花山を經て同安を襲擊するといふ。

洪・蔣兩軍古宅へ退擊さる　高部の洪哲明・蔣義和は新墟を攻めて占領したるも、陸團趙營に

反攻されて古宅へ退けり。（以上五月三日―厦門電）

泉州戰愈々擴大　泉州戰の範圍愈擴大し、溪尾・洪瀨・青陽等各地は仍ほ高軍の爲めに占領さる。高部の敗兵は馬巷三點の會匪と聯合し、その聲勢又極めて大なり。惠安の焦營・青陽の王營・馬巷の趙營は均しく包圍を受け、民軍は高部に內應し、省軍が全力を擧げ來り泉州を平定すること能はざらしむ。楊學良・陳錚等は已に高と共に協力すべきことを表示せりといふ。（五月三日―福州電）

泉州の陷落と周蔭人の急電　泉州は已に高義に陷落され、孔昭同は大に敗退したりと傳へらる。よりて一方衞隊第二團は福建省城より急遽出發して泉州に赴き、又一方周蔭人は急電を以て延平第一團に對し速かに省城に回り、防禦に務むべしと命せり。（五月四日―福州電）

泉人多く厦門に避難　孔昭同は泉州に在り。大に高部と關係あるものを捕ふ。よりて泉州の人は多く厦門に逃れて避難せり。

孔氏の進軍と吳氏の攻擊開始　孔昭同は三日兵を派して洪瀨・溪尾・河市を進攻せしめ、竝に吳大洪は仙遊より將さに永春を攻擊せんとする說あり。

周氏の決意と高部の追擊　周蔭人は許崇智軍が未だ福建に入らざる先きに乘じ、先づ民軍を撲滅して肘腋の患を除かんと決意し、一方已に高義第二師長の職を免じ同時に第二十三旅長李

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

奉生を拔擢し高氏の後を襲はしめ、又一方第四十八團を泉州に派遣し、孔昭同を助けて高部を追擊し、竝に衞隊第一團に援助の爲め南下すべきを命令せり。（以上五月四日—厦門電）

洪・黃兩氏を推擧す　厦門總商會は七日洪鴻儒竝に黃奕住兩氏を正副會長に推擧せり。（五月七日—厦門電）

洛陽橋等連日の激戰　福建省城より派遣したる援軍は泉州に至りて後、已に守勢を去りて攻勢に轉じ秀塗・青陽・官橋・洛陽橋等の各地には連日激戰有りしといふ。

周蔭人高部各旅長懲罰の電請　周蔭人は北京に向ひ、速かに高義及高義の所屬各部の旅團長の官職を褫奪ありたしと電請し、其の命令已に福建に到著せるを以て高部愈々憤慨せり。（以上五月七日—福州電）

陳氏周氏の勸告を未だ承諾せず　陳國輝は仙都に駐まるも高義の後方を襲擊せず、周蔭人は孔昭同をして陳に勸告せしめ共に高義を滅せしめんとするも陳は未だ之を承諾せず。

周蔭人部溪尾を攻めんとす　周蔭人部第四十五團一營は同安より安海に至り、元安海に駐屯せる焦營は七日の朝官橋に向つて前進し、將さに溪尾を攻めんとす。

孔軍の高部進攻計劃　孔昭同は高義部を進攻する計劃ありて、現に第四十七團を二路に分ち、一方は南安より洪瀨に進軍せしめ、又一方は山腰より詩山に轉入せしめ、而して張緒節を

以て嚮導と爲す。第四十八團は八尺嶺より溪尾に入らしめ、又焦營をして官橋・嶺兜より溪尾の後方を襲はしめ、金淘に至りて止まらしめ趙得光營を以て嚮導と爲す。又第五師吳大洪に令して仙遊より永春に入らしめたりといふ。（以上五月八日—厦門電）

□廣東近情彙錄

廣東省署の諸將會議　五月二日廣東省署に於て各將領を招き會議を開催せし席上楊希閔・劉震寰は力めて現狀維持を主張せるも、滇桂軍互に賭餉を爭へるの各理由を具申したり。蓋しその意は胡漢民をして難を知り自ら退かしむるにありといふ。

許・譚兩氏の電報往復內容　許崇智は譚延闓に打電して請ふ、「胡漢民を助けて廣東時局を維持されんこと」を。譚氏覆して曰はく、「もし政府を顚覆し黨義を破壞するものあらば相互に力を戮せて掃蕩に當るべし」と。

胡氏の命令と夏・黃の任免　胡漢民令を下して兵工廠長黃驁の職を免じ、夏聲を兵工廠管理委員會委員長に任じ、又同時に趙士覬等を兵工廠管理委員會委員に任じたりといふ。

楊軍の士敏土廠占領　楊希閔は滇軍六百餘名を動員し、三日軍艦に搭乘して河南に渡過し士敏土廠を占領したるにより、元該廠に駐在せる警衞軍は多くは直ちに軍艦に乘じて香山に退却

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

せり。（以上五月四日—香港電）

廖氏調停の結果　廖仲愷は各方面に向つて調停したる結果（一）大本營の實行委員制は各總司令を以て委員と爲すこと（二）市郊防地及賭餉（賭博稅）は滇（雲南）桂（廣西）軍自ら協商して支配を行ふこと（三）公安局長には楊希閔よりは那其仁を派し劉震寰よりは黎某を派し胡・廖は主として舊に依ること〻決定せり。（以上五月五日—香港電）

許等の攻閩軍十日潮汕集中　許崇智・蔣介石・方聲濤等の攻閩軍隊は十日潮・汕へ集中する事に決定せり。

許・蔣兩氏財政支配の爭論　許崇智・蔣介石は財政支配の爭論に因り、すでに廖仲愷の調停を經たるも、蔣は福建に入りて發展を圖るべきことを表示し、よりて潮・梅督辦に就任せずといふ。（以上五月七日—廈門電）

□唐・范の勝敗及惠州落城と粵局

廣西唐軍の邕寧堅守　四月二十二日廣州消息に云ふ、廣西なる唐・范兩軍戰爭は、先日唐軍邕寧を退出せる由盛に傳へられたるも、實は同城仍ほ唐軍の手に在るは范・李聯軍々報の認むる所なり。然るに香港消息に據るに、唐軍の貴州より廣西に入るもの已に進んで柳州に逼るの勢あり。范・李等は桂平を失はゞ前後に敵を受くるの不利あらんことを恐れ、已に邕寧の圍を解き、李・黃等の桂軍は返りて柳州を救ひ、范部雲南軍は退いて永淳に赴けり。故に邕寧の唐軍は舊に仍りて自由活動しつ〻ありといふ。

范部退却は確實　信ずべき消息に據るに、范部雲南軍は頃日來已に退いて貴縣に至り、永淳よりは更に三百支里も後方に退却したり。此れ廣東省西南八屬に雄據せる鄧本殷が、陳軍の失敗を見、其の地盤を失はんことを恐れ、一方國民黨政府と打合せ、一方范・李等と聯絡して將に失はんとする地盤を維持せんとしたるも、頃日來國民黨政府は鄧氏を八屬長官と爲さゞるべきを新聞紙に揭載せしめたるを聞き、且范・李等の邕寧包圍も久しく功を奏せざるを知るのみならず、林俊廷は極力周旋し唐軍と聯絡するの利益を說きたれば、遂に中立を變じて忽ち唐軍に加入し、廣東邊境靈山より永淳を圍攻するの擧に出でたり。范軍此の打擊を受け、勢其の所部を率ゐて大に退き、貴縣に集中し、一方鄧本殷の包襲を避け一方亦桂平に接應せざるべからず。此れ范軍の忽ち退くに至りし眞因なり。

劉震寰の聯唐と楊の强硬　同時に更に范・李等聯軍の致命傷となりしのみならず、且粵・桂の大局を牽動するに足るものは、現に廣州に駐れる桂軍の總司令劉震寰が、頃日來公然其の聯唐態度を發表せること是なり。香港新聞報に云く、某要人嘗て劉震寰氏に晤し唐繼堯の事に關し

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

談及したるに、劉總司令自ら曰く、彼數月前雲南に至りし時、唐が革命政府との聯合動作に對する意は甚だ誠實なりき。同時に余に請ふに返廣の時各要人に向ひ双方の結合を商議せんことを以てせり。余廣州に返りし後嘗て此の意を以て當道に告げたるも、當道皆未だ贊可せず。唐繼堯が副元帥職に就くの電發表せらるゝに及び、廣州側は積極的に反對し、竝に各總司令より加名して反對の旨發電せんと欲したり。然るに余は唐氏に對し既に結合打合せの任務を擔當しながら未だ答復する能はざるに、今忽ち余の名を加へて討唐電を發表するなどは到底爲し能はざる所なり。予が革命政府に對する終始之を擁護して貳心あるなきも、唐氏に對しては尙中間に在りて双方を結合せしむるの責任を有せり。若し當方にして唐氏に結合の機會を與へば余は則ち責任を負ひ調停者とならん。然るに若し當方が絕對に唐氏を容れずとならば余は亦何をか言はん云々と。されば劉氏の意は討唐の擧動には贊成せざること明なり。啻に此の如きのみならず、又桂軍が廣州に在りて積極的に戒嚴し、及び東江の桂軍の調動を聽かざるが如き、更に國民黨政府をして戒懼せしむるに足れり。現在廣州政府中の人は嫡系軍隊の許崇智部已に遠く潮・梅に在り、而して廣州及び東江の地盤は皆楊・胡部の滇軍・劉部桂軍の手に在り。此等滇・桂軍は只一紙の通電を以て大局を變易するに足らん。故に黨政府は明に其の楊・劉輩の信賴するに足らざるを知ると雖も、隱忍して之を其儘に放置せざる能はず。しかも楊・劉等は此の勢力を

挾み權利爭奪の爲めに毫も遠慮する所なし。最近楊希閔の强いて其の副官長夏聲を兵工廠長と爲し又番攤賭餉の商人を遽に更易したるは其の顯著なるものなり。按ずるに石井兵工廠の現任廠長黃驥は許崇智の保薦せる所にて大元帥の名義を以て任命されたる上、許派張民達より兵二百餘を派して駐守せしめあるに、忽ち楊希閔氏より夏聲を派して之を受次がしむるの事發生するに及び、胡漢民氏は之を奈何ともする能はず、委員制說を唱へしめ滇軍の獨擅を防止せんと力めたるも、楊氏は更に之に耳を假さず、十七日特に廖行超の所部たる警備隊の大部を派し、夏氏を擁して廠長職を受け繼がしめたり。此の武庫にして既に楊の手に入る、以後は滇軍の子彈銃器の缺乏を慮らざるなり。次に來るは番攤賭餉にして此れ粵省收入の最大宗に係れり。此の收益は從前范石生の專管なりしが、范氏が兵を率ゐて廣西に入りしより三個月內は仍ほ范部の軍餉たるべきことを聲明されありき。今該期限は未だ滿たざるも舊受負商の期限已に至りたれば、楊氏乃ち衞戍司令の名義を以て商を招きて之を引受けしむ。是に於て范氏は廣西より打電して前日の權利を主張せるも、在廣滇軍の各師長は分段受負の說を提出し多數決に從ふべき傾向あれば、范氏の主張は自然消滅に歸せんとする狀あり。此れ又范部の致命傷とならん。

廣州政府の危局　已に此の如くなれば廣州の地盤は全く滇軍第二師の手に歸し、武庫に軍餉に能力に皆胡・許諸人の爭ふ能はざる所なるは知るべし。故に廣州の大局は表面尙偸安し得るに

似たるも、其の內實は岌々として危象を有せざるはなし。之に加ふるに現在警察の能力薄弱なるを以てし、廣州の匪風日に盛なれば、西關に駐れる滇軍第二師長廖行超に公安局長を兼任せしめ、軍警共に其の管轄を受けしむべしの聲漸く高まらんとするあり。若し果して其の說の實行されんには、財權軍警權を擧げて一滇軍の手に操ることゝなり、省長兼代大元帥たる胡漢民氏は無爲にして治を爲すの外なきに至らん。此の如きは胡氏の能く堪ふる所に非ざれば。其の結果は又許氏の兵を廣州に返し以て一戰に出でざるべからざるは想見に難からざるなり。

（四月二十九日—新聞報）

惠州城肅淸後の粵現局　惠州陳軍楊坤如部が聯軍の胡思舜に收容編入されて後、潮・梅・惠三屬の陳軍は全く肅淸を告げ、潮・梅兩屬は許崇智・蔣介石の駐防地と爲り、惠州十縣中其の東部は南の方海陸豐より起り、中頃紫金・龍川を經て北方の和平に達するまでの五縣の地は許崇智新編の羅翼羣部の民軍及び吳鐵城の警衛軍全部の防守するに歸し、而して警衛軍は實に龍川縣の老隆を大本營と爲す。此の地は高く東江の上游に踞り、隱然として第二次對惠城の作戰を爲すに尤も優勢を占むるの地とす。而して西部は連平・新豐二縣の未だ明瞭ならざるものを除く外、河源・惠陽・博羅の三屬は現に已に全く滇軍胡思舜部の手に入れり。是に於てもと惠陽・博羅以南の飛鵝嶺より甲子步・淡水に至る一帶の地に駐りし桂軍は一切廣九鐵路一帶に退きて防守

したれば、廣州大沙頭站より廣九鐵路に沿ひて石龍各站に至り、又石龍より起り東江に沿ひ直に上りて惠陽博羅に至り、又廣九鐵路石灘より起り、北の方增城を出で以て龍門に至る一帶は均しく滇軍の駐守する所と爲れり。又石龍站より起り南廣九鐵路各站に沿ひ深圳までの地は均しく桂軍韋冠英・嚴兆豐・林樹巍三部の段を分ちて防守するに歸したり。（東莞全屬は韋・嚴二人に、寶安屬は林に歸せり）されば粵境內に在りては高雷廉欽瓊崖及び兩陽八屬には尙ほ鄧本殷部等の陳軍あるのみにて、餘は皆聯軍の手に歸し居れる譯なるが、唐繼堯氏部下の廣西に入りし軍は今尙邕寧に滯駐せるも其の威力微々たるの觀あり。故に表面に就いて論ずれば廣州政府の現狀は殆ど敵國外患なしと稱せらるべきも、しかも一たび內幕に立入りて觀察すれば今日廣州政府の危殆なると政局の紛糾とは、其の程度遠く陳軍の未だ東江を退かざる時よりも甚し。蓋し廣州政府の賴りて心腹と爲すの軍隊は只許崇智・蔣介石・吳鐵城の諸軍にして皆遠く出でゝ潮・梅及惠屬の東部に在り。其の中間は滇桂軍の爲に隔絕され、廣州政府は孤立無援の地に立てり。許部中尙李福林の一軍を留めて省河對面の河南に在るも、皆民軍にして一擊の價値だになし。隨ひて滇・桂兩軍が番攤賭餉を爭ひ、兵工廠を取り、公安局を奪はんとするは勢の免れざる所なり。

廠工罷業の魂膽　石井兵工廠が滇軍に橫領されしより、胡漢民氏等は心之に甘んせず、特に

工人を利用して能業せしめたるが、該廠工人は四月二十七日夕方より大會議を開きて決定すべしといふ。然れども其の能く實現すべきや否やは未定なり。

背銀黨猖獗の黑幕　廣州市內目下白晝銀貨劫奪の擧動多く、之を背銀黨と名づけて一の匪徒組織を爲せり。此の種の匪黨は專ら打銅街十三行登龍街一帶の銀業家地點に在りて、銀業家が家人に銀貨を持たせ外出せしむる時、之を强奪するを業とし、若し抵抗すれば必ず先づ其の人を銃殺して威を云すの亂暴を働きつゝあり。かくて三四百元より五六百元迄を一次に掠奪されたること數回あり。而して最近十日間につゞいて三銀業家の此の禍に罹れるは皆打銅街邊に在りしといふ。(四月十七日—打銅街廣譽號より鄰街源隆號に銀一千兩を二人して送らせたるに、當街錦隆號門前にさしかゝりし時劫奪されたるが、幸に該匪中の一名を取押へ訊問の上其の匪のあまり遠からざる晏公街閩漳會館に駐紮せる桂軍に屬せるものなること明となり、直に公安局に送り卽日午後銃殺したり。又同二十三日—西榮巷維新銀號が同じく銀貨一千兩を打銅街明興銀號に送り、該號にて八百兩を受入れ、殘額二百兩を維信號に返送させたる途中を要し奪ひ去られたるが、未だ犯人を獲ず。又同二十七日—興隆街全發號が銀一千兩を打銅街明興銀號に送り屆けしむるに、其の打銅街入口に至るや、五六人の黨匪に掠奪されたるが、直ちに警察を呼び之を追捕せしめたれば銀兩を手車上に投棄し逃れ去れり。されど警吏は一名銃殺され一

名は傷を受けたり。)警察界中の人は此等の黨匪は皆軍隊中の人なることを認め居り、且此を以て公安局長吳鐵城の職を奪はんとする魂胆に出づと爲せり。(以上五月五日—新聞報二十七日廣東消息)

□廣西省の現狀（上）

廣西の政治　唐繼堯軍の南寧に入りしより後、廣西の臨時省長張一氣梧州に奔り、尋で潯州に行署を設け、其の統治の及ぶ所は蒼梧・桂林・柳江の三道と爲す。而して蒼梧道中の蒼梧・懷琴・信都・桂林道の富川・賀縣は實際上梧州善後所李濟琛の統治範圍に歸し軍政は皆李氏より支配さる。最近李氏は沈鴻英軍の葉靑錢等を收容編入して各處に集中せしめたるが、南寧・田南・鎭南の三道に至りては唐軍及び邊防軍の聯合占踞するに一任し、唐軍邕寧入の初に當りては林俊廷が紳民の請に順ひ邊防督辦の名義を以て南寧に入りて治安を維持し、署內に政務・財政の兩處を設けて之を總理せるが、實は政務處長・財政廳長の變相たるに過ぎず。劉震寰が曾て孫氏の命を受けて桂省長と爲りしより後、李・黃の阻む所と爲りて願の如くなる能はざるに因り、唐・林と聯合動作し、曾て所部第三師長・黎鼎鑑を派し海防に迂廻して南寧に入り一切の準備を爲せり。現に劉氏が廣州省長たるを運動し頗る成功すべき理由あるに因り、桂長の職を林氏に讓らんとの意あり。黎氏は前月末各界要人を招請し宴席にて林督辦に廣西省長を兼ねられんこと

を請ふに至れり。されど省城附近には仍ほ戰事あり、且省議會竝に唐繼堯氏の意見を求めたる後に非れば實現せざるべし。

土匪の現狀　廣西にては民國十年より後土匪各處に充滿し、加ふるに連年の戰爭により軍人多く土匪中に入るを以てし、其の尤も著名なるは滇桂邊界の烟匪にして、兵粮武器共に充足し、專ら阿片商人を刼掠するを以て業とせり。故に阿片商は隊を組み兵器を携ふるに非れば出づる能はざりしが、唐軍の廣西に入りしより後、或は之を招撫し或は之を斃ちたれば今は從前の如く猖獗なるを見ざるのみ。殊に平樂・潯州・柳州の交界なる猺山は土匪の巢窟にして平南縣城の如きを最も要害と爲す。故に該城の縣立中學校の如き一小隊の軍士を校中に駐め縣城の北門を堵塞しあり。其の匪害を畏るゝの狀を見るべし。又撫河に失敗せる沈鴻英軍は現に多く該山中に入りて土匪と爲り、而して猺山支脈の鵬化山は沈軍旅長張希栻の據りて巢穴と爲す所なり。附近なる平南・蒙山・象縣・武宣の各縣は皆該山土匪の騷擾を受けたり。鬱林は李宗仁が駐紮せる時盜風盛なりしが、戰事緊急を告ぐるに至り根本軍隊の貴縣に調せられたる結果、縣城すら刼掠を蒙り、商人は銃器あるも團體なき爲め實に防禦に苦めり。又梧州の如き現に亦匪徒が汽船に向ひ其の香港紙幣及び銃器を交附するを要索するの件あり。梧州各鄉中戎圩の如き鄉團の哨兵は擊たれ、又石良塘は水路稅を取立てられ、東安は陸路に關所を置き、岑溪・藤縣亦然り。

されば梧州善後處及び總指揮部には殆ど一日として匪案を生せざるはなき有樣なり。

廣西の金融　廣西は南寧造幣廠の鑄造停止より後も、梧州・潯州の兩廠は從前の如く鑄造をつゞけ居れり。然れども潯州廠にて出せる銀幣は樣式粗にして僞造し易し。而して梧州廠は生銀の購入に香港紙幣を用ふべきを以て打步多くして利の圖るべきなし。故に規定通りなる六割竝に六割色に依らず。商人は其の質色共に佳ならざるを以て共同して之を抵制せり。該廠遂に前日に於て停止せしより軍人は廣州より私鑄銅貨を運び來りたれば交易困難となり物價騰貴せり。是に於て財政局長梁鵬萬陳濤は五月五日各機關の人々を招請し商會に赴き幣制維持の辦法を討論せしめたるが、當日は縣議會・參事會・城議會・董事會・審檢廳・銀業行・商會・財政局・善後處・警察局の代表も皆參會し、討論の結果、商會より梧州善後處及び第二軍總指揮部に呈請することゝなれり。其の大要は下の如し。云く、前略已に三箇條の辦法を公同議決せり。(一)梧州善後處黃總指揮部に呈請し、兵艦を派し上下游に駐め、各船艦輸入の僞幣を檢查截緝し、竝に各機關より稽查員を增派して其の來源を杜絕せしむること。(二)銀業行の意見を採用し如何なる種類の銀幣式を適用とするかに付一の標準を定めて記錄に存し現狀を維持し、標準定りて後如し爭執あらば双方より商會に至りて比較鑑定せしむること。(三)總商會より銀票を發して低くして且僞なる銀幣を收容し鑄替へて行使せしむるに應に至急に討論進行せしむべし。按ずる

に梧州市の贋幣の數は約二萬餘にして、各商店には皆百元以上の貯藏あり、小商人は贋幣を手にして一飯を爲すを得ざるものあり。故に若し急に方法を講せざれば其の結果は大事に至らん。廣西三造幣廠の出せる銀貨に至つては固より廣西以外へは一歩だも出づる能はず。而して本省の行使は僅に各通邑大都に限られ、更に暗中割引せらるれば、反りて民國十年以前の紙幣の全省に普く通用せしには及ばざるなり。現に粵省の舊幣にして一割の增歩を爲すものすらある程なり。（未完）

□湖北・湖南・江西三省に於ける線路用木材の調査（下）

江西省の杉木

本省の山地は地味肥沃にして、樹木の多き事は湖南の遠く及ぶ處にあらず。而して其所屬產區たる瑞金・會昌・安遠・信豐・尋鄔・石城・寧都・興國・龍南・虔南・贛南・康・大庾・上猷・崇義・臨江・遂川・萬安・太和・永新・安福・蓮花・廬花・廬陵・廣昌・南豐・黎川・南城・武寧・修水・靖安・奉新等の諸縣の如き、何れも植林に係り、種類は地方に因り其名稱を異にせり。卽ち瑞金・會昌・安遠・信豐・尋鄔・石城・寧都・興國・龍南・虔南竝に贛縣等の諸縣產は東關杉と稱し、南康・大庾・上猷・崇義等の諸縣產は西關杉又は贛南杉と稱し、臨江・遂川・萬安・太和・永新・廬陵等の諸縣產は吉安杉と

稱し、廣昌・南豐・黎川・南城等の諸縣產は建昌杉と稱し、武寧・修水・靖安・奉新等の諸縣產は修水杉と稱せり。其產額を見るに、東關・西關・吉安等は每年碼各約七八萬兩の產出あれども、唯建昌杉・修水杉の產出は年々僅かに數十碼にして、合計約碼は二十餘萬兩たり。東關杉は多く周圍大に幹も長く、中錢貨は三分の一を占め、瑞金・安遠等の產品最も有名たり。西關杉は其幹甚だしく短かゝらずと雖、周圍は頗る小にして、中錢貨は約十分の一を占め、上猷・崇義等の產品最も多數なり。吉安產は周圍小に幹も甚だ短く、中錢貨は約二十分の一を占めり。建昌杉の中錢貨は唯南城に產し、修水杉の中錢貨は甚だ少し。故に南昌河に集り、枕木を作るに適當せる中錢杉木は每年約十五萬餘株にして、一株より枕木三本を得るものとすれば、年々約五十萬本を得べし、然れども恐らく實際は此數に止まらざるべし。木質は東關杉稍や佳良に、紅地なるは瑞金產尤も多く、西關杉は白地にして、之れに次ぎ、修水杉も亦白地にして、更らに之れに次ぎ、吉安杉・建昌杉は亦紅地にして、其木質稍や良好なり。其山地に於ける贛南・東西關の價格は兩碼に付き小銀貨約三元にして、銀（大洋）に換算すれば二元一角或は二元四角となり、伐採費は別に要す。吉安河・建昌河・修水河は兩碼に付き何れも約銀（大洋）三元にして、伐採費も含めり。工賃は月拂にして、食費も含み、每月八元なり、伐木工の一日平均伐樹能力は五株なり。樹木の皮を削り枝を切る者の工賃は贛南方面に在りて食費の支給を受けざる時は日々銅元二三

十枚にして、食費の支給を受くる時は銅元十餘枚なり。吉安・建昌等の地方は相同じきも、修水流域附近は南潯鐵道の通ずるに因り、生活程度稍や高く、食費の支給を受けざる者の工賃日々銅元約三四十枚にして、若し月定めなる時は大抵食費約銀(大洋)六元なり、而して水夫の南昌より吳城に筏を流す者は毎月銅八百枚なり。鋸挽工の贛南・吉安に於ける工賃は毎日銅元二十枚なり。伐木時期は冬季のもの多く、其東關の各縣產は貢水本源及琴水・桃江・瀘江の各川に集り、然る後貢江を經て贛江に出で、西關の各縣產は章水南北各源より各川に集り、章江を經て贛江に出で、而して東西兩關產は全部贛縣に集り始めて木把を編成し、吉安を經て南昌に輸送せらるなり。古安河の杉木は遂水の各源より遂江を經て贛江に出で、萬安・泰和等の諸縣產と禾水・瀘江各源より流出する臨江・永新・廬陵等諸縣產とは全部吉安に集り、木把に改編し、南昌に輸送せらる。流水各源より流出し、建昌に集れる杉は木把に改編し、三江口を經て贛江に出で、南昌に輸送す。修水の正流各水より集れる修水杉竝びに支流潦水の南中北各源より流出する杉は共に徐家埠を經て吳城に輸送せらる。筏に編成されたる贛州杉・吉安杉は均しく南昌に輸送され、而して吳城に輸送さるものは大筏となし、且つ修水杉を加へたる後鄱陽湖に放入し、湖口を經て長江に出づ。費用は其價格一萬元なるものにて、運賃・釐金稅共贛州河より南昌に至る約半箇月間に四千元を要し、吉安より南昌に至る約七日間に二千元を要す、而して其內三分の

二は釐金稅の占むる處なり。又省城より安昌に輸送するに約六千元を要し、南京に輸送すれば尙其三分の一を加へたる九千元を要す、而して釐金稅は其二分の一を占めり。市價の情態を見るに、贛縣河・吉安河の大中小錢貨は平均兩碼に付き上貨は約七十八貫、次貨は約十三四貫、脚碼は約十一二貫なり、(一貫は洋一元に相當す)。唯贛州は小洋貫を用ひ、吉安は大洋貫を用ふ。而して共に南昌に輸送せらる。兩碼に付き大洋上貨は約二十七八貫、並貨は約二十貫なり。專ら中錢貨に就きて論ずれば、贛縣に在るものは兩碼に付き約銀(大洋)十四五貫、南昌に在るものは約銀(大洋)二十貫にして、又南昌に於ける市價は其幹の普通木に比し、二尺を逾ゆるものを臨時一貫と定め居れり、故に中錢貨にして幹の長さ四丈以上なるは兩碼に付き約銀(大洋)二十五六貫、三丈以上なるは兩碼に付き約銀(大洋)十七八貫にして、建昌杉の南昌に在るものと其市價同樣なり。其挽きて棺材用に供する杉木は長さ六尺二三寸なるものにて、兩碼に付き約五六元なり。其木材の商狀を見るに、南昌の商狀は多く對岸七州に左右せられ、就中潮王一洲は特に旺盛を極め、木業の總會、大木材商は皆此處に集り、贛南・吉安・建昌より輸送し來れる大小の木把は盡く該州に在りて筏に編成せずと雖、小賣・卸賣等一切の商業行爲は該州を以て其樞紐となせり。南昌以下にして木材業の最も盛なる區域は吳城なり、該地は贛江・修水兩河の會合點に位せるを以て、贛江より浮流し來れる筏及修河より放出さる把は、共に該鎭に於て大筏

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

に編成せらるるなり、之れに因り江蘇・安徽の兩帮より來り購入し、輸送し去る者甚だ多し。唯江西の杉材は廣く江蘇・安徽の兩省に販賣せらるゝ雖、江蘇・安徽及江西方面に於ける大建築の主要材料は多く湖南の杉材なり、之れ幹の圓周湖南產の大なるに及ばざるに因るものにして、且つ其耐久程度も恐らく及ばざるべし。釐金關稅を見るに、贛南の杉木は兩碼に付き、茅店或は三江口より贛縣を經て贛江に出づるものは、第一卡稅五分、卽ち約六角にして、贛關を經たる常關稅は約四角なり。三湖第二卡は稅七分卽ち約七角、吳城第三卡稅は八分卽ち約八角にして、姑塘を經たる常關稅は約六分なり。湖口の輸出稅は一元に付き約兩元一角たり。吉安の杉木は兩碼に付き、遂川・高安・泰和等諸縣產の沿溪渡第一卡に至るものは稅五分、永新・安福・遂花等の諸縣產にして、神崗山第一卡に至るものは稅五分なれば、共に約六角なり。三湖より湖口に至る釐金及關稅數目は相同じく、共に約銀(大洋)三元五角なり。唯修水放出杉木の釐金關稅は僅かに吳城・姑塘・湖口の三處にして、何れも約銀(大洋)二元四角なり。而して以上は財政當局の報告となす。三湖に於ける大筏は深さ三尺、長さ六丈、幅三丈ありて、杉木一千九百四十四株より成り、之れを三六と稱し、大概杉木一千株に付き三十六元の稅を納め、東關貨は周圍大に幹も亦長きを以て尙加稅せられ、若し周圍小に幹も短きものは僅かに徵稅三分に過ぎざれども、多くは九分の徵稅なりと、以上は木材商の言たり。

江西省の雜木

雜木の產區は甚だ廣く全省は廬陵・贛南・豫章・潯陽等の四道區に分れ、就中豫章道の上饒・廣豐・鉛山の間には伐木を禁せる周圍約三四百支里の山あり、該山は已に淸朝時代に於いて其伐採を禁じたるものなり、又樂平九里山も亦伐採を禁じられたるものにして、潯陽道に屬せり。修水の源にして、江西・湖南の境界に在る幕阜山より北に轉じ、江西・湖北境界に在る九宮山に至る四五百支里の間は伐木を禁じてより幾んど二百年に及べり。以上の三處は何れも深林密菁に係り、九宮山內には尙銅鑛を含めり。該省實業廳に於ては採伐許可の意志あれども、唯猶豫中なり。現在南潯鐵道の枕木材料は多く潯陽道屬の武寧・修水等の諸縣より採集せるものにして、其種類には杉・柏・株・樟・栗・槐・榆・桑・梨・何・柞・梓・楠・檀・椿・楊柳・梧桐・楓・擦寶樹・金錢松等あり、何・柞は贛南の特產にして、擦寶樹・金錢松は廬山の特產なり。樟木には香臭の二種あり、香樟は卽ち樟腦の原料にして、贛南及舊南安府屬產のものは多く此種に屬せり。南潯鐵道の枕木材料は株・樟・栗・檀の四種にして、其產額は明ならざれども、他省に移出するに至らざるなり。大抵は松・楓・樟・栗・株・何等の產出多く、梓・柏・楠・椆等は產出少し。南潯鐵道の調査に據れば、樟・栗・楓・松等は贛州・吉安等より各約十萬株內外を產し、株・樟・栗・楓・檀等は武寧より約十萬株內外、修水より約八萬株內外を產し、而して株木・銅鼓最も多く約五萬株內外を產せ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

り。木質は梓・柏・樟・楠・椆・樟・株・楡・栗・何等最も優良にして、其内何の木質は特に堅硬なり、故に一般に小車の輪盤用となし、或は枕木材としても頗る優良なるものなり。山地に於ける價格は不定なれども、採・樟・栗・樟等の小賣値は、南潯鐵道の調査に據れば、略一株に付き三角内外なりと、挽工一日の工賃は約銀(大洋)二角内外にして、大小樹を平均し、約十株を挽き得と、伐木時期は冬季夏季の別無く不定期なれども、唯板材の柏・樟及棺材の楠・梓は多く冬季に伐採す。其贛南・廬陵兩道及豫章道北部産は丸太たると板たるとに論無く、多く杉筏に積み、南昌・吳城・湖口或は九江に輸送し、豫章道饒江流域産・潯陽道鄱江流域産及都昌産は杉筏比較的少に因り、多くは自ら筏を編成し、或は帆船に積載し、以て吳城・湖口及九江に輸送し、潯陽道修水流域産も亦多くは杉筏に積み、吳城及九江に輸送す。費用は距離の遠近に因りて大いに異なれり。大抵挽きて枕木と爲し、南潯鐵道用に供するものは、贛南産・廬陵産・豫章産に論無く、南昌より小蒸汽船に積載して九江に輸送し、或は汽車に依り九江に輸送す、而して其運賃は一本に付き約銀(大洋)二角内外なり。饒江・鄱江及修水流域より産するものは吳城より小蒸汽船に積載して九江に輸送し、或は徐家埠より汽車に積みて九江に輸送するものにして、一本に付き汽車なれば約銀(大洋)一角五分内外を要し、小蒸汽船なれば約銀(大洋)四分を要す。市價を見るに、柏・樟・何・柳・松・楓等の板材は毎方に付き、柏約銀(大洋)三十五六元、樟約二十八九元、何

約二十三四元、柳約二十五六元、松約二十一二元、楓約二十元なり。楠木の棺材は毎幅約三百元乃至六百元にして、其他の各種は一定せざるなり。市價は唯其木の長短に依りて臨時に協定せらるものにして、以上の各種板材の毎方は尺寸にして、長さは約一丈六尺、廣さは約一丈、其厚さは則ち柏・樟は約一寸八分、何・柳・松・楓は約二寸四分なり。南潯鐵道の用ふる株・樟・栗・檀等の枕木は圓角一本に付き約銀(大洋)一元二角以上にして、方角は約一元七角内外なり。江西省に於ける雜木の地位は恰かも湖南に於けるが如く、杉木の遙か下にあれども、唯贛南・吉安一帶に産する香樟は樟腦製造の原料たると、且つは日本樟腦公司の派遣員常に駐在し、其買收に從事し居るを以て、含腦量の比較的多量なる樟木屑片は毎方約銀(大洋)二十元以上三十元以下の價格を有し、其製造し得たる樟腦は百斤に付き約銀(大洋)百元以上の價格を有せり。其他の柏・樟・何・柳・松・楓等の如きは板材に限られり、偶々一時盛況を示せる事ありしが、其輸出を見たる事殆んど無し。楠木の棺材は甚だ貴重なれども、其産額に限りあり。薑金關税は從價格にして、圓材なれば第一卡税五分、第二卡税七分なるを以て、全部にて百分の十二の課税なり。板材は毎小方卽ち長さ幅各一丈に付き、第一卡税五分にして、卽ち樟腦は銅元三十枚、雜木板は銅元二十四枚を課せられ、第二卡税七分にして、卽ち樟板は銅元四十二枚、雜木板は銅元三十三枚零六文を課せらるなり。(完) (京漢鐵路局報告—農商公報第十卷第九册)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

蘭領東印度

□爪哇に於けるカポックと其の用途

弘く Bombacaceae 種樹木は熱帶諸國に多種且つ廣汎なる區域に亘りて栽培せられ、種子を包被せる果實內には多量に絹狀纖維を包有す。

嘗て此ものは土人の採取せる所に屬し諸種の用途に利用せらる。然れども、始めて爪哇より和蘭に試驗的に其纖維の少量を送致輸出するに至りしは第十九世紀後半の事なり。

現今カポックに對する價値日々に增大し、從て同品に對する需要は益々增加の趨勢を辿り、他の熱帶國に於ても爪哇の例に倣ひて輸出向カポックに充分なる注意を拂ふに至りたり。

商用名辭　商取引上 Bombacaceae 纖維は夫々カポック、Silk cotton, Pflanzen daunen 等種々稱呼せらる。就中カポックは市場に差出さるゝもの〻一般的名稱にて他は殆んど用ひられず。

然れども本名は眞正のカポック樹（學名—Ceiba Pentandra）製品のみに止まらず、混合種たる Ceiba, Bombax（兩者共に Bombacaceae 屬に屬する）製品にも亦此名稱を用ふることあり。

本項に於てカポックと稱するは總て眞正樹（學名—前出）及同製品を稱呼し、混合種なる場合は一切之れを用ひざること〻せり。

產地の相違するに依て纖維の特長（從て價格に差異あるは勿論のこと）は甚だしく異なる。

此處に注意すべきは混合種の一なる Ceiba Acuminata にして、墨西哥南部に野生し Pochote と稱する眞綿の產出することなり。此ものはカポックに比較し纖維短小に、僅に其輸出は米國にのみ限られ同輸出品の品質は頗る多種多樣なり。其浮泛力と彈力性は略々爪哇カポックに相似す。

產地　云ふ迄もなく最優良品と目せられし爪哇カポックは Ceiba Pentandra に依て得らるゝ。然るに英領印度、交趾支那等の地方產種より價値尠なき Gaertn（= Eriodondron Anfructuosum D. C.）は Bombax Malabaricum 及他の Bombax 種に屬する果實より得らるゝ。

カポック樹は蘭領東印度諸島殊に爪哇に植樹せられ、爪哇のみにて蘭印諸島より輸出せらるゝカポック總額の約九十五パセントを占む。

分布　該樹は主として土人所有地及其附近の田畑に沿ひて植えられ、爪哇の北部海岸州スマラン、ベカロンガン及スーラカルタに存する歐洲人經營に屬するエステート六十有餘園に於ても亦栽植せられ、其生產高は爪哇總產額の約六パセントに當る。

該樹は眞正なる幹部との長く水平に突出せる枝の部分は、之れによりて細枝と空虛なる簇葉（ぞくは）を殆んど發生せしめず。斯くてカポック樹の最も顯著なる外容を形成す。

收穫　成熟するを待ちて直ちに收穫を行ひ、後工場內に於て纖維、種子、外殼及心を夫々仕

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

分けす。

カポックは一部分手工にてクリーンせらるれども、一等品の眞綿を得る爲めには、此後機械を用ふることが必要とせらるゝ。副產物たる種子は製油に供す。

仕上　市場に出さるゝ前、爪哇に於ては充分加工作業に注意せらるゝ爲め、カポックは殆んど不純爽雜物を有せず、仕向國に在る製造業者は梳棉(カーディング)の工程に入る直前に於て容易に之等不純物を取除くことを得。

市場　米國は爪哇カポックに對する最大市場にして、濠洲之れに次ぎ、和蘭本國は第三位を占む。

嘗てアムステルダムは、歐米諸國の消費に當る爲めの世界的市場なりしが、戰後頓に其重要性を減じ其代りに米國への直送權頭し茲に非常なる發達を出來せり。而して大戰前和蘭に積出せるカポックの量著大なりしを考ふれば當時如何に獨逸が此ものを多量に使用消費せしやは誰しも容易に諒知し得らるゝ。

之れと同時に英國及び丁抹・瑞典・諸威諸國に於て今日尙ほ需要の比較的尠きは一考に値すべし。

蒲團用カポック　其昔 Horsehair, Crin végétal, Cotton waste linters 等が最良且最も持ち良き蒲

團の塡充用に適すと云へる時代は既に過ぎ去り、カポックは次第に塡充用最適品として愛翫使用せられ、其値段に於ては頗る廉價なれども他のあらゆる點に於てカポックに劣るが故に他の塡重材料に著々代位しつゝあり。

前述せる如く充塡用纖維其他種々の用途に供するが爲め、カポックは商取引上最重位を獲し現今盛んに愛用せられ、其用途も益々多方面に亙らんとす。特に其纖維の非吸濕性なると地質の柔軟且つ彈力性强き點に於て室內裝飾用家具として最も好適す。

カポックは又塡充に際し少量の纖維を以て比較的大なるスペースを充塡するの利益あり。加ふるに其伸縮力は長期間使用に堪ふる等他の彈力性强き纖維に對し優利なる性質を具備す。カポック入りマットレスは載荷物を撤去すれば忽ち原狀に復歸す。而して Horsehair, crin végétal, Woodshavings, Seaweed 等にて製造せるマッティングは長期使用の後固結すれどもカポック製品に於てはかゝる憂無し。其上カポック(植物纖維より見て)は他種の製品に於けるよりも蟲類に侵蝕せらるゝの危險著しく小なり。更に輕量なるを以て容易に持ち運びし得る便益あり。

次表に列示せるが如く、或一定容積のマットレスに入るゝに必要なるカポックの重量は、既述せる他の塡重材料の何れよりも大ならず。依て結局費用の點に於ても他の何れよりも低廉なるは明かなり。

今3×6尺のマットレスを作るに要する各種材料の重量を順次に記載すれば左の如し。

（單位封度）

Java Kapok	17.6—19.8	Crin Vegetal	26.4—28.6
Horsehair	26.4—28.6	Alpine Grass	25.4—28.6
Seaweed	33.0—35.2	Straw	23.6—22.0
Woodshavings	33.0—33.0		

此處に特記せざる可らざるは Horsehair, Crin vegetal 等を使用せる場合、所要の軟かさを與ふる爲めにカポックの薄層を以て蒲團に充塡せざる可らず。

産地の異なるに連れて各々伸縮性も亦相違す。斯くて塡充するカポックの割合は、爪哇カポック二十封度に對する英印産ボムバックス眞綿二十九封度となる。

爪哇カポックの優越なることは Sir George Watt 氏の代表的著述なる『The Commercial Products of India』の第五二二頁に於て印度産眞綿は爪哇の其れに比し遜色ありと記述せらるゝによりても明に認識せらる。今參考迄に其一部分を摘載すれば左の如し。

其原因とする所は一はカポックに對する Collecting, Cleaning, Packing, Pressing, etc. の諸作業工程に於て他の製品に比し劣る所あると說き、他は氣候若しくは植樹の種類によると稱するも、余は後者に左袒するものなり。

又記者連（殊に印度新聞紙に於ける）の言に據ればカポックとは彼の有名なる Semal cotton —Bombax 種眞綿——に對する和蘭名なりと稱するは明かに誤解なり。Eriodendron (Ceiba Pentrndra Gaerty の古名) 眞綿は遙に Bombax よりも優良にして兩者は決して混同す可らず。

カポックの缺點は夏季に於て冷感を與へざるの點にあり。然れども此說の當らざるは熱帶及亞熱帶に於て通常廣く一般に使用せらるゝに徵しても明なり。

カポックの特長は伸縮性大なるの他、カポック纖維は他の植物性充塡材料に比し諸點を擧げ得べし。

卽ち先づ第一にカポックは吸濕性を有せざることなり。

又カポック製蒲團は容易に濕氣を吸收せず、從て乾燥速なるが爲め、直ちに第二回目の使用に堪え、而も濕氣を含めるカポックは乾燥後と雖も、先に保持せし伸縮力を喪はず。

海草の如き材料にあつては乾燥頗ぶる遲きが故に蒲團覆ひを腐蝕せしむる事あれどもカポックに於てはかゝる憂無し。

前述せる如くカポックの非吸收性は他の何れの塡充材料に於ても發見し得べからず。

カポックの乾燥並に消毒殺菌　在巴里、パスチュール研究所（Pasteur Institute）報告に據れ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ば、カポックは其特性を失ふことなく少くとも三回は加熱したる上殺菌せらるれども、他の家具材料に於ては此作業に堪ふること通例僅に二回に過ぎず、斯くてカポックは病院用褥に好適すと稱せらる。

陸軍用カポック製蒲團　カポック製蒲團は個人的使用以外に、他の諸外國に於ては陸軍用に供せらる。戰前獨逸に於てはカポック製蒲團と他の製品による旨を仔細に研究し、實驗の結果カッポクの優越性を認め忽ち獨逸陸軍兵舍内に於てカポック以外他の材料を使用せざるやうに決定されたり。

家具塡充用カポック　既述せる如く充塡材料としてのカポックはHorsehair等に比し遙かに優良なり。

此理由によりて爪哇カポックは、所謂他地方產カポックよりも良質なり。

外科用繃帶塡充材料としてのカポック　繃帶用カポックは次の理由の下に需要近時益々增大せらる。

一、カポックは伸縮性を有し永く使用したる後と雖も接合せず。

一、カポックは濕氣を吸收すること無し。

一、カポックは乾燥消毒をなすことを得。

一、カポックは容積大なるにより之れにて充塡せるバンデージは輕量なり。

救命器具より見たるカポック　他の用途に於けるが如く救命器具としても需要大なるは此樣維の特性に徵するも明かなり。

救命帶及救命浮標としての資格を擧ぐれば左の如し。

一、浮泛力大なること。

二、數日間潛水をなせども依然として浮泛力を減せず。

三、乾燥後と雖も尙ほ原の浮泛力を殆んど恢復す。

次に異なりたる數種の塡充材料に就き潛水の際其自身の重量の何倍に堪え得るかにつきて試驗せる結果を比較すれば卽ち左の如し。

Prime Java Kapok	二五乃至三〇倍
British-India Bombax "Kapok"	一〇乃至一五倍
Reindeer hair(馴鹿の毛)	一一倍
Cork(コルク)	六倍

斯くてカポックの浮泛力はコルクの約五倍、馴鹿の毛の約三倍に當る。依是觀之、カポックはコルク否馴鹿の毛髮よりも重要なるや明かなり。

爪哇カポック二封度を塡充せる救命帶は最少限五十封度(重量)を支持し得べし。

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

總て充塡材料は潛水長時間に亘る時は著しく浮揚力を失ふ缺點あり。されどコルク及馴鹿の毛髮は直ちに原浮力を喪ふれどもカポックに於ては潛水三十日に及ぶとも其減退僅かに十パセントに過ぎず。救命用器具は數日間に亘りて潛水することあるを以て此用途に對するカポックの需要は絶大なり。

又カポックは乾燥後と雖も直ちに浮泛力を奪回す。之れ他の充塡材料に見ることを得ざる一特色にして救命器具類の使用上最も必要なる點なり。他の利點とすべきは吸濕性を有せざる點にして、之れあるが爲め濕氣を有するカポックは急速に乾燥を爲し救命帶等の腐敗すること無し。

カポックは甚だしく嵩高品なるより、之れを以て塡めたる救命器具は溺死せんとする人々に附著して阻害あること無し。

通例爪哇カポックはコルクよりも重用せらる。

カポックの用途　織物用としてカポックは爾來發明家の多數によりて企劃せられたれども未だ成效せず。獨逸專問織物業者は嘗て屢々カポックより不純物を除去するに努力せしが當時原料たる材料を大部分喪失するに過ぎざりき。紡績上困難なる點の中主要なるはカポック纖維面のなめらかなる滑りを有するが爲め粘著力を缺くに由る。尙ほカポック纖維短く、眞正にして且つ硬剛なれども、綿纖維に於ては長く且つ强靭にして自然的扭撚性を有す。

塡充材料として最も價値多き性質——即ち彈力性と各纖維に分離し得る性質——は紡績の際に於て最も必要なりとせらるゝ性質とは全然反對なり。紡績用纖維はフェルト用特質を具有し、相互に絡み付く性質を有せざる可らず。

然れども現在の處に於ては、カポックは未だ紡績用纖維として重用せらるゝ迄には至らず。

以上述べたる外、カポックの特性は容易に熱を傳へざるが故に、飛行服の上張用又は冬着に弘く用ひらる。かゝる場合カポックは紡績を行はず、單に擴げ用ひて材料の間に介入せしむるに足る。斯の如く製造されたる衣具類は輕質、暖衣なると、加ふるに此ものは比較的廉價なり。

又カポックは重くがさ〳〵した毛織（わたかも）雁、毛製毛布の代りに輕き暖かなるものゝ製造に供せらる。

最近カポックは熱を傳ふること少なきと、濕氣を吸收せざるとにより冷却器（Refrigerators）塡充材として頗る好適視せらる。

爪哇カポックの重要視せらるゝ所以　爪哇カポックは現今數量的にも品質的にも世界市場を支配す。爪哇カポックの年當り輸出額一二、〇〇〇乃至一七、〇〇〇噸にして他地方よりの產額は爾く重要ならず。比島よりは三百噸、印度支那約七十噸、錫蘭は一九二二年約三百噸、エクッアドル一九二〇年百噸を夫々輸出せるに過ぎず。

カポックの大部分は爪哇より供給せらると稱するも敢て誇稱に非ず。以上說述する所のみに

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ては爪哇カボックに對する品質の優越性を主張し得ざるも、商人竝に製造者間に於て特に歡迎せらるゝの理由の一半を物語れるものなり。

他の國々に於てカボックは市況有利なるにも拘らず、重要商品と見做されず、されど爪哇に於ては市場に提供せらるゝ商品中優秀なる地位を占む。各年主要港に於ける商館は取引の基礎たるサムプルの標準を査定し、其間商品の仲裁機關ありて爭議竝に問題を解決す。此の如くして在外商願は製品の品質を安心して購入し得らる。

包裝及壓縮の方法は非常なる注意を以て行はる。加ふるに爪哇產カボックの購入に際し今一つの利點あり。卽ち眞實のカボック樹(Ceiba Pentandra)の製品を得ることにして他の產地國に於ては到底得可らざる所なり。

製品に對し、其れが機械的に純粹なりとは、植物學上に於て所謂純粹さと云ふ程重要なる事柄に非ず。在爪哇、歐人エステート產カボックは最大〇・三パセント以下の種子其他の不純物を包有す。然るに普通に輸出せらるゝ品種のものには平均三・五若くは七パセントを有すと稱せらる。純粹爪哇カボック製品は運賃特に消費國に於ける其他手數料の高低如何によつて其價格は著しく異なるものなり。

市場出廻狀況　重要なる二積出港に在る貿易商館は爪哇カボック商人の取引を擁護する爲

め、カボックの支部を各地に有す。スマラン、スーラバヤ及バタビヤに於ける取引の情況は順次に詳說すべし。

此處に揭載せる統計表によりても知悉せらゝが如く、就中スマランは最大輸出港にて爪哇より輸出すべきカボックの五十パセント以上を占む。スーラバヤは第二位にしてバタビヤ之れに次ぐ。以前他の爪哇港市よりも其少量を輸出せられしが後年前記三港に限らるゝに至れり。

通例其取引はブローカーの手を經て行はる。標準契約に於ては、責任は直接當事者の双方に存す。當事者兩者間に意見の相違を生せる際には、貿易商館に附屬せるカボック仲裁事務所に於て解決せらる。

スマラン市場　カボックの價格は積出の際に於ける正味重量或は引渡しの時に於ける正味重量に從て各々C・I・Fに依て契約せらる。

而して其價格は仕向國の如何により夫々流通使用せらるゝ貨幣若しくは重量に從て決定せらる。

通常決濟は買手の信用に從て九十日後又は六十日後擔保付手形(信用狀を買手より振出す)を以て行はるれども前者を最も普通とす。

カボックの品質　スマラン市場に於て取扱はるゝ品質を示せば左の如し。

A契約　種子及不純物三パセント以下を含有せる爪哇一等カポック。
B契約　同　五同　スマラン一等カポック。
C契約　同　七同　平均スマランカポック。

スマラン市に隣接せる某歐人農園に於ては種子分最大〇・三パセントを有する良品を產出す。之等のエステートカポックは此スタンダードに依て購入せらる。

米國は普通B及C、尙ほ所謂米國クォリティー（其品質B、Cの中間品）と呼ぶ三樣品を注文す。米國の主要市場たる紐育はB種品及米國クォリティーを所望し時に又Cクォリティーを桑港に積送せらる。

濠洲市場に於てはC品を最大となし、他に所謂濠洲向品（Australian quality）と稱するものを多量に出荷す。之等品種の等級を詳記せむとするは頗る難事にして所謂濠洲向と稱するは、C品以下なれどもC品を下ること如何樣なりや不明なり。在スマラン賣買業者は濠洲商人の指定に從ひて輸出し居るに過ぎず。

最近年に於ては需要の向上に伴ひてB品に對する注文を見るに及べり。

一般に歐洲はA及Bに限られ和蘭に於ては爪哇一等品普通にして不純物少きとB級の幹及其れが具有する色彩最も受け合はれ居るもの丶如し。

其他英・佛・西及北歐諸國に於てはB品を最も普通とす。

包裝　輸出向カポックはガンニー囊に壓入し鐵製箍を以て緊縛せらる。

積出しの際には純量カポック百斤を容れたる二重梱包裝をなす。壓縮の程度は仕向地の遠近に因りて異る。和蘭へは最大四擔（一擔＝六一・七六斤）を一立方米に壓縮包裝し他の歐洲諸國は四・六五乃至四・七五擔（一立方米）のものを好望す。

米國も亦四・七五擔のものを歡迎し其內容は一梱當り約百斤と稱せらる。

濠洲向品に對しては重量一六〇乃至一七〇封度にて容積10×12立方呎の二重梱入りとす。此のものは最大四・四〇擔（一立方米）なり。然れどもカポックは一梱入り百乃至百十封度、容積8×10立方呎となし濠洲に搬送す。而して其最大約三・五〇擔（一立方米）に壓縮す。

スラバヤ市場　カポックの輸出狀況は大樣スマランと同樣なり。

然れども製品の分類は少しく異り、此地方市場に於てはPrime Madura, Prime Parrong, Prime East Javaの三種が取引せらる丶。

通常和蘭へは旣述せるプライム・デャバ（Prime Parrong, Prime Maduraを含む）を送致す。Prime East Javaは包含さる丶ことなし。不良品は契約に依て引渡されず、競賣によりて賣却せらる丶。

米國はPrime Parrong, Prime MaduraとPrime East Javaを輸入す。

アジア経済研究所図書館
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

粗惡品は概して濠洲に輸出せらるれども最近年濠洲市場も亦Prime Madura, Prime Parrongの如き良品を好望するに至れり。

其他壓縮、包裝竝代金支拂の方法に關してはスマランに於けると略々同樣なり。

バタビヤ市場　主としてバンタム州より供給せらるれども、頗る少量にして品質亦スマラン若くはスラバヤ産品の如く良好ならず。

スマラン及東部爪哇と異り此地カポックは總量に(純量に對す)依て行はる。此場合風袋として約五パセントを込めざる可らず。バタビヤ産カポックは不純物唯僅に一パセントを有するに過ぎず。壓縮設備の不完全なるにより通常バンタム産カポックは三擔を一立方米に壓縮包裝せらるれども他産品に於ては其以下なり。

（遠東時報—四月號）

英領北ボルネオ

□北ボルネオ林業概觀

一九二三年間に於て遂行されし事業の詳細は森林生産物と關連して「一九二三年度北ボルネオ林務局報告」中に記載せらるゝ所なり。

同年中に於ての木材伐採量は二、八六四、一〇二立方呎にして其中二、一三四、三四一立方呎輸出せられたり。然して其輸出割合は次の如し。

香港	七八・八一	濠洲	一・九一
日本	九・六三	上海	一・五八
其他の諸國	一・〇五	英本國	五・五四
		サラワック	一・四八

ブューホート附近に製紙工場設立の議提起されたり。然して英領ボルネオ木材會社(The British Borneo Timber Company)の要求により林務局はベノタル溪谷(Penotal Gorge)の調査をなせり。其結果製紙に適する材木量英反當六、二一立方呎ある事明となれり。バダス河に沿ひて及テノム附近ベガランに利用せらるべき多量の木材あり。注意深き調査は製紙工場設立前に於てせられざるべからざるなり。

ニパ椰子汁よりモーター用燃料アルコールを生産する事現今考へらるゝ所なり。ラブック灣クワラ・セマワン(Kuala Semawang)に於て、同汁採取の目的にて一二五英反の地整理せられ、埠頭は建設せられ、必要建築物は建造せられ又ボイラー及蒸溜器日當一〇〇鑵生産するものとして設置せられたり。斯の如き工場の設立は漸次大能力の工場設立を來すものなりと期待さる。

十月中カワン(イリペ)脂は地方コ、ナット油工場にて歐人向用として採取されたり。果實を海外に輸出するよりもボルネオに於て油脂を採取する方遙かに有利にして此の試驗の結果好良なれば小工業此の方面に向つて發生とすべし期待さる。（ピュレッチン・オブ・インピリアル・インステチュ

ート第二十三卷第一號に據る）

□英領北ボのニツパ椰子と其の産物（上）

發動機の液體燃料問題は、列國の等しく苦心焦慮する處である。熱帶南洋に於ては、夙に其の給源を無盡藏なる植物に求むる研究、就中ニツパ・パームの利用に關しては、從來最も有望視せらるゝ處であつて、此の研究は最近北ボルネオに於て大規模の營利的蒸溜試驗に成功し、採算上の數字も明かになつたので、愈々事業としての確實性が定つて來た。以下記述する本文は、過般同地を實査せる海峽植民地及馬來聯邦州農務局化學部農業化學技師 Mr. J. H. Dennet. の右に關する詳細なる報告を譯譯したるものである。

英領北ボルネオに野生せるニツパ・パームは、其の一個の區域が五千英反にも上りて利用し得るものであつて、內輪に見積りたる其の面積は、少くも三千萬英反である。之等の面積は、何れも其の奧行數鎖乃至二哩を有して河口を緣とり、約九十哩の距離に擴がるものである。

野生せる狀態にある此のパームは、其の繁りの中に入り込むに困難する程密生し、花を著くる事は稀である。

英領北ボルネオは入口が少なく、從つてニツパの採集も僅少なるものに過ぎぬ。夫れ故に、多くはアタップ製造用の爲に、又は其の野生する地域に他の作物が植栽さるゝが爲に、單に河岸の緣飾となつたに過ぎぬ馬來聯邦州のニツパとは、最初から條件に大差がある。

斯くして、英領北ボルネオのニツパは、農業的企業圈內のものであり、林產物として殘されてゐるものである。

セマワン河口

予が視察せる區域は、サンダカンの北部約五十哩のセマワン河口洲（Kuala Semawang）の周邊に位置し、發動機用燃料（スピリット）製造の爲に、試驗用機械を裝置せられたる場所である。河口洲の最緣邊はマングローブ帶を形成し、其の奧の濕洲は其の幅二鎖乃至四分の三哩、距離八、九哩の間、ニツパを以て蔽はれてゐる。其の面積の內部はすべて三乃至十五呎幅の小枝流が間隙をなして居るが故に、採雄作業は易々たるものであらうと思はれる。

之等の面積を占むるニツパは、所謂 "Nippah Gallah" に酷似せる狀態を示してゐる。換言すれば、過度に密生せる結果として、其の小葉は眞直卽ち殆ど從立的に生じ、小果實が僅かに著生せるに過ぎぬ。故に、現今は Nippah Padi と稱せらるゝもの、形態を備ふる樣に、間伐法を施して其の葉を擴げしむる傾向を生じた。其の結果として繼續的結實が期待されてゐる。間伐濟の面積に於ては非常に健康な狀態、卽ち此の植物の色彩は愈々良好になり、且つ結實がより盛んになつて來てゐる事を示してゐる。

然し、其の果軸は、すべて同齡ではないから、生長肥大の總ての階梯を示すものが當然あり

さうなものであるが、夫れがなかつた。事實上、全面積中に未開の芽が少なからず見られた事は、年中、生長肥大の總ての階梯を見る事が出來るとも稱し得べき馬來聯邦州の場合とは差異のある點を注目す可きである。

"Conchanging" を行ふ事は缺くべからざる事である。即ち、產出額の多寡は、果軸の受くる豫備的手入の如何に比例すると考へられてゐる。

採集

英領北ボルネオで作成されたる豫算の總ては、アルコール又は砂糖生產の何れかの目的によるものであつて、一箇年の作業日數百八十日を基礎とせられたるものである。

然し、間伐法を施す以上は、一箇年間のタッピングは九箇月又は十二箇月繼續する事も出來るし、其の上、全本數が產出能力を有するに至るであらうと信ぜられてゐる。

試驗用工場に原料を供給したる區域のタッピングは、一九二四年一月に開始し、六月中まで繼續された。

處が上述の通り其處のバームは甚だ密生してゐたのでタッピング後間伐の必要を悟り、英反當り約三百本を殘して（The Malayan Agricultural Journal, Vol. XI, P. 59. 參照）過剩なる本數を伐採し初めたが、其の結果として果實のあるバームの位置が、餘りに隔離する事となつた爲め、

反て採集上の困難を增すに至つた。

採集は一日一回丈けで、其の方法は果軸を一回薄く削り去りて液を流出せしめ、之を集むるのであるが、毎十二時間を要する。集液は先づ竹を聯絡して之に流し入れられる。斯くしてゐる內に、既に部分的醱酵を起したる液は、石油空罐中に移され、舢舨に運び入れられるのである。又之等の竹は火の上に翳し燻烟して淸められる。

此の作業上重要視されてゐる事は、勞働者一人一日當り汁液八十ギャロンを產するに足る丈けのバームをタッピング爲し得る能率である。百八十日を一季とする期間に於ける一樹當り汁液生產數量は十ギャロンとせらる。是は、之れより製出する處の砂糖量に換算すると、英反當り四千封度以上となる（一箇年全部を通じて作業せば九千封度と豫算せる Malayan Agricultural Jaurnal を參照せよ）。

汁液はサンパンを以て工場棧橋に輸送する。一切の採集費は工場著一ギャロン當り一仙の割合である。汁液は不正に稀釋さるゝ事を防がんが爲め、工場に於て其の濃度を檢査される。

工場

試驗用機械裝置は、一日當り二百ギャロン（英國の容量單位による）以上の發動機燃料（スピリット）を生產する事が出來る。而して其の總建設費は銀四萬二千弗と決定した。之に要する

アジア経済研究所 Institute of Developing Economies http://www.ide.go.jp

工場全體は、屋根は畝トタン葺で、壁はアタッブを以て組立てられ、次に示す處の三房に仕切られてある。

第一　實際使用の作業氣壓八〇ポンドを維持し得る汽罐室

第二　醗酵室並にアルコール貯藏室

第三　蒸溜裝置全體(但し外形は塔狀)

醗酵室には、各千六百ギャロンの容量を有する醗酵槽三箇と、四千ギャロンの容量を有するアルコール貯藏タンク一箇を備付けてある。汁液はポンプを使用して舶飯から之等の槽に灌がれる。

蒸溜裝置全體は都合よく三階建になつて居り、其等各階は機械裝置上の詳細なる單位より割り出して合理的に連絡あるものではないが、其等の差異ある部分が便利に接近し得るやうに造られてゐる。

アルコール蒸溜分離器は、高さ十八乃至二十呎、直徑十八吋のものにして、二十五箇の分離器(25 fractionating plates)を有し、之等は地階より第一階の中央に裝置され、第一階の上半は凝縮器が場所を占めてゐる。第二階には原料汁液用として重力式定壓器が設定されてゐる。

蒸　溜

醗酵したる汁液は、約二十四時間醗酵槽中に靜置し、其の後ポンプを使用して其處から第二階の槽に揚げ、定壓を受けて地階の豫行加熱器に灌ぎ込まれ、夫れからアルコール蒸溜器の底部に送られる。次に蒸氣を同じく其の底部に併出せしめると、豫め加熱されてゐた汁液は蒸發作用を營む。而して、之より發したる蒸氣は二十五箇の分離器に至りて、其の一部は凝縮作用を起し、アルコールは蒸溜裝置全體の上方に間斷なく上り、水は蒸溜器の底部に復歸する。此處で未だ凝縮しなかつた汁液の蒸氣は、蒸溜器の頂端から出るから、夫れをデフレグマトル(即ち Dephlegmator にして豫行凝縮器)の中を通過せしめると、元來、水蒸氣は總てアルコールよりも更に容易に凝縮作用を惹き起すものであるが故に、此處で水はアルコールから一層よく分離せられて、アルコールは本式なる凝縮器の方へ道かれる。

別にサイフォンの働きによりて蒸溜裝置全體の頂端に復歸したる凝縮せる液體は、猶未だ、アルコールの少量を含むものであるが、之が基部の方に流下して來ると、下より上昇する熱度高き蒸氣に遭遇し、其の氣體中にある水分に凝縮作用を起さしむるの一方、此の液體中のアルコールは、其の熱度高き蒸氣によりて蒸發作用を誘致せられる。

斯くして、アルコールと水の殆ど完全なる分離の行はるゝ最後に至るまで、アルコール蒸氣は通過、水蒸氣は凝縮の二作用を間斷なく反覆し、アルコールはデフレマトルを過ぎて、本式

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

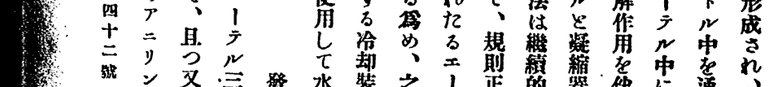
の凝縮器に於て液化し、水はアルコールより遊離して、蒸溜器の底部に至り更に此處から發散するものである。

斯くして得たるものは、未精製品なる含水量約四%のアルコールであつて、地階に備付けあるアルコール貯溜槽に流し込まれる。

エーテル

エーテル製造裝置は、其の主なる趣向竝に作業はアルコール製造と類似せるものであるが、唯だ規模が小なるのみである。然し其の規矩の外形卽ち濃硫酸とアルコールとの反應によつて、エーテルが形成せらるゝ場所にある蒸氣熱放散を防ぐに必要な外筒に於て、相違する點がある。

硫酸はエーテルの成分を含むアルコール二分子中より、水一分子を抽出する能力を有するものである。之は次の化學方程式にて明示される。



$$C_2H_5\boxed{OH+H}O\ C_2H_5 = C_2H_5OC_2H_5 + H_2O$$

アルコール　アルコール　エーテル　水

反應を起すに足る丈けの濃硫酸(所謂、商取引上の)の必須量は、之に對するアルコールの適量と共に機械の反應室に入れられ、容器は百四十度に熱したる儘にして置く。斯くすれば、エ

ーテルが形成され、揮發してエーテル蒸溜分離器の底部に通ずる。而してエーテル揮發物はデフレグマトル中を通過する前に、苛性曹達を入れてあるデシデフィア(Deacidifier)を通過せしめて、エーテル中に或は含有する事もある硫酸(卽ち硫酸はアルコールに作用すれば其の一部は當然分解作用を伴ひ、エーテルを不純ならしむるものである)を遊離する。其の氣體はデフレグマトルと凝縮器を通過して、此處で凝縮したるアルコールと水は蒸溜分離器を復歸する。

此の方法は繼續的に反覆される。卽ち、アルコールは其の含有する硫酸の反應が非常に稀薄になるまで、規則正しく反應用容器に引き戻される。

凝縮されたるエーテルは、凝縮器から地階にある貯藏槽に灌がれる。貯藏槽は、エーテルの揮發性ある爲め、之が防壓用として夫れに一個の凝縮器を密著さしてある。

右に對する冷却裝置としては、此の凝縮器及び之れより第一階にある二個の凝縮器を通じてポンプを使用して水を通はしてある。

發動機用液體燃料

一般にエーテル三〇%とアルコール七〇%にはアニリン一%を加用する。之は一方に於て變性劑として、且つ又エーテルとアルコールの燃燒する際に發する廢氣中の酸を中和せんが爲である。此のアニリンの加用によつて、フオスター・パテント(Foster Patent)なる液體燃料を組成

するのである。エーテル一五%とアルコール五%の割合に混合したる液體も試用されたが、試驗の詳細なるものなく未だ實際に應用するに足らぬ。（未完）（新嘉坡商品陳列館報第九十二號）

其他

□一九二四—二五年度緬甸稻作最後豫想概畧

一九二四—二五年度緬甸米地方別稻作最後の豫想は概略次の如し。（單位英反）

		今年度	前年度當期豫想高に對する增減	前年度作付面積に對する增減	今後の增減見込
作付面積	下緬甸	九、二一七、五〇〇	(+) 一九九、四〇〇	(+) 一七一、五一〇	(+) 七五、六〇〇
	上緬甸	二、八二九、五〇〇	(+) 三九、四〇〇	(−) 四一、二四一	(+) 六三、八〇〇
	計	一二、〇四七、〇〇〇	(+) 二三八、八〇〇	(+) 一三〇、二六九	(+) 一三九、四〇〇
被害面積	下緬甸	一六四、八〇〇	(−) 七四五、七〇〇	(−) 七〇七、一〇三	(−) 四一、一〇〇
	上緬甸	一六八、〇〇〇	(−) 一一六、四〇〇	(+) 二二七、八七六	(+) 三二、〇〇〇
	計	三三二、八〇〇	(−) 八六二、一〇〇	(+) 九三四、九七九	(−) 九、一〇〇
收穫面積	下緬甸	九、〇五二、七〇〇	(+) 九四五、一〇〇	(+) 八七八、六一三	(+) 一一六、七〇〇
	上緬甸	二、六六一、五〇〇	(+) 一一五、八〇〇	(+) 一八六、六三五	(+) 三一、八〇〇
	計	一一、七一四、二〇〇	一、一〇〇、九〇〇	(+) 一、〇六五、二四八	(+) 一四八、五〇〇

一九二三—二四年度に於ける各地別最後の見込みは六、二五〇、〇〇〇噸にして、其の輸出餘力は二、五二五、〇〇〇噸卽ち袋米一、九五〇、〇〇〇噸及前年よりの持越米である持越米高は關

貢に於ける在庫米によりて支配せらるゝのであるが、之は緬甸商業會議所の代表者が算定するのである。

此の算定に依れば袋米七五、〇〇〇噸であつた一般農家の在米は算定しない。輸出米の實數に就ては或は袋米二、四六〇、〇〇〇噸と云ひ、或は二、五〇七、〇〇〇噸と云ひ又或は二、五二二、〇〇〇噸と種々に言はれて居る。又或者は持越米四七五、〇〇〇噸を加算して居る。同年の見積は少な過ぎた樣であつたがと云ふて之を覆す程の理由がありとも思はれない。

本報告に於ける收穫面積の增加の爲め全國の收穫高は籾七、六〇〇、〇〇〇噸の多きに上る見込である。其内六〇〇、〇〇〇噸はアラカン州(Arakan Division)である。今年の輸出餘力は三、六五〇、〇〇〇噸卽ち袋米約二、八二五、〇〇〇噸にて、商業會議所代表者は前年より持越米は皆無と稱して居る。輸出港別に示せばアキャブ(Akyab)より二四〇、〇〇〇噸バセイン(Bassein)より三八五、〇〇〇噸、モウルメイン(Moulmain)より一七五、〇〇〇噸、關貢其他より二、〇二五、〇〇〇噸である。（華南銀行關貢支店報告に據る）

註　籾の袋米換算率は商業會議所の換算率に從ひ籾百噸を以て袋米七七五噸とす。

蘭領印度茶輸出表（單位千瓩）

年別	仕向國別					合計
	和蘭	英吉利	亞米利加	濠洲	其他	
一九二三年	一四六·六	一四八·三	四·〇四一	一一·六四	三·六三	一六〇·〇七
一九二二年	一一四·三	一三八·八五	四·三八一	一〇·三九八	一·三五	四一三·三
一九二一年	一一·三九	九·六八	三·一〇四	九·七六	六四	三八·六四
一九二〇年	一六·七八	一四四·一	三·四四一	·七七	一·八四四	四六·七一
一九一九年	三七·〇〇三	一四一·六四	三·六六一	七·三一	三·六六一	三〇·〇八一
一九一八年	—	四四	一六·三一〇	五·一八〇	八·〇〇三	一六·九八八
一九一七年	六九	三·一三九	一四·六四	五·三八三	一五·八六	一八·〇一〇
一九一六年	一四·四八	一〇·一八	三九	三·一一七	一三·三三	四·〇九九
一九一五年	一九·七三四	一四·〇六	三三	三·六八	九·四三	四七·三三
一九一〇年	九·一〇八	一一·〇八〇	一一四	一·六八一	一一·四四三	三三·八八

備考　※は想數を計上せり。
　　右表は蘭印輸出入檢査局統計に據る。